

高齢求職者スキルアップ・スキルチェンジコースについて

第1 目的

概ね60歳以上の者に対するスキルアップ・スキルチェンジを実現するための訓練コースとする。

第2 受講対象者

50歳以上の求職者

第3 訓練カリキュラムの構成

訓練カリキュラムは、専門科目、高齢求職者専門科目及び高齢求職者就職促進科目から構成する。

(1) 専門科目

科目概要に記載している知識・技能の習得及び目標資格取得のための科目とし、目安時間数は250時間～270時間程度とする。

イ 留意事項

- ・ 実践力を養うため、講義のみならず、課題演習、グループ演習、ロールプレイング等、適切かつ効果的な方法により行うこと。
- ・ 資格は必要最小限とすることが望ましい。

(2) 高齢求職者専門科目

高齢求職者として期待される知識、スキルを活かし、求められる人材のスキル等を付与する科目とし、目安時間数は30～40時間程度とする。

イ 留意事項

- ・ 実践力を養うため、講義のみならず、課題演習、グループ演習、ロールプレイング等、適切かつ効果的な方法により行うこと。

ロ カリキュラム参考例

- ・ コミュニケーションのテクニック（クレーム対応含む）
多様な世代・価値観を理解し、良好な職場関係を構築するため自己流コミュニケーションから脱却し、適切なスキルを習得する。
- ・ 仕事に必要なスキル
自己流の仕事のやり方から脱却し、高齢求職者でもスムーズに仕事を進めるためのスキルを習得する。時間管理、アングーマネジメント、ITリテラシー等。
- ・ ライフプランとワーク・ライフ・プランの知識
ライフプランの考え方を学び、安定した老後の生活を送るための知識を

習得する。

- ・ キャリアプランの知識
60歳以降のキャリアプランについて考える。

(3) 高齢求職者就職促進科目

高齢求職者に職業意識を転換させることの必要性への気づきを促し、就職活動の経験不足を補強するための科目とするし、目安時間数は35～45時間程度。

受講者が職業意識の転換の必要性等に自ら気付くことを促し、就職意欲の維持・提起につなげるため、必要に応じてグループワークによる問題意識の共有・同年代における情報共有・訓練受講者同士による模擬面接等の方法を取り入れることが望ましい。

イ 留意事項

- ・ 入所時から実求人に向けた目標の設定を確実に実施すること。
- ・ 週一度の就職活動状況のフォローアップを確実に実施すること。
- ・ 早い段階からの企業説明会、企業面談会を確実に実施すること。
- ・ 訓練開始時期にアイスブレイクやワールドカフェ方式などを活用し訓練受講者間の相互理解を図ることが望ましい。

ロ カリキュラム参考例

- ・ 再就職のための自己理解
職務の棚卸を行い、自分の価値を改めて確認した上で、マインドセットのチェンジをする重要性を認識する。
- ・ 健康管理の知識
健康管理の重要性を知り、受講者自身がどのような職種、職場環境であれば健康を維持しながら働くことができるか把握する。
- ・ 求人動向
自分の希望と現実の差を把握させ、適切な希望に修正するための情報を与える。
- ・ 応募書類の作成テクニック
高齢求職者には、就職活動の経験が少ない者も多いことから、履歴書・職務経歴書の書き方、データの作成方法等を基礎から学ぶ。
- ・ 面接のテクニック
高齢求職者には、就職活動の経験が少ない者の多いことから、面接試験のテクニック、企業の視点を基礎から学ぶ。
- ・ 求人情報等の収集方法
高齢求職者には、就職活動の経験が少ない者の多いことから、求職票の

見方からハローワークインターネットサービスや民間求人サイト等からの求人情報の収集・分析方法を習得する。

- ・ 企業説明会、企業相談会、企業人講話 等

第4 その他

加齢による影響に配慮し、訓練教材の文字の大きさ、十分な質疑応答時間の確保、単元ごとの確認テストの実施など訓練実施上の工夫を行うこと。

目安時間数は参考として例示しているもの。各科目の時間数が上記目安時間を超過又は不足しても、差し支えない。